

つくる健康



京都医療生協

第186号 2018年(平成30年)1月15日
発行所 / 京都医療生活協同組合
京都市中京区聚楽廻東町2番地
視力センタービル地階
075(822)2286 FAX075(822)6133
発行責任者 / 山田 亮三

新年のごあいさつ



京都医療生協
理事長

山田 亮三

労働革命の時を迎えて

だれでも、どこでも、いつでも

働く力を活かせるように

働ける世界最強とされる人間が、暮盤に打つている覇者が、人口頭脳：「グーグル・アルファ」に敗退したのは、二〇一六年のことです。このシステムでは、感知装置が暮盤情報を人口知能に伝え、それが選んだ次の手に発揮できる労働革命を

明けておめでとうございます。被災された方々の生活再建が達成できるように望みます。

太古の女性腕骨が語るもの
農耕初期に石臼で粉を現代の手漕ぎポット競技ひいていた女性の腕は、女性の腕よりも遅し

困窮の世界最強とされる人間が暮盤に打つている覇者が、人口頭脳：「グーグル・アルファ」に敗退したのは、二〇一六年のことです。このシステムでは、感知装置が暮盤情報を人口知能に伝え、それが選んだ次の手に発揮できる労働革命を

「孫ブルー」と言う言葉がある。息子、娘から孫の面倒を見て欲しいと頼まれ、それが習慣化すると祖父母がしたいことも出来ず憂鬱になることを指すらしい。働きも増え、若夫婦の手助けもせねばと使命感に燃え、孫も可愛いし引き受けるのだが、度々であれば老後の自由な生活設計もどこへやら「孫ブルー」を造語した方が、世話できない場合はいと述べておられたが、どれだけの祖父母が毅然と対応できるだろう。シングルマザーや若夫婦の所得も少なく、みて見ぬふりは出来ず経済的にも援助している祖父母も居ると聞く。詩人の金子光晴が四十四年前に刊行した、孫を題材に書いた「若葉のうた」という詩集がある。金子の変転とした人生の終わり近く、初孫に対する愛情が溢れ、先行きの社会を憂いながらも批判精神を失わない「運動会」の詩は傑作。読める間は間違いなく「孫ブルー」から解放される。(須賀修司)



学生さんの目の健康を一緒に考えました

京都大学生協と連携して

京大生協学生委員会企画 『萬屋ばれつと〜京大生三種の神器、点検の秋〜』と題した組合員の大学生活における必需品点検が、十月三十日(月)〜十一月二日(木)に京大西部会館ルネにて行われました。京都医療生協ではこれに協力し、「学生の目の健康」を守るため、コンタクト開封体験・メガネの無料クリーニング・コンタクトレンズに関する目のトラブルに対する予防や正しい使い方についての情報提供しました。とくに不適切なコンタクトレンズ、カラコンの取扱いの危険性・ドライアイ・VDTについても注意喚起し、多くの学生がブースに立ち寄りくれました。今後も京大生協とつながりを継続、発展させられるよう取り組みたいと考えています。

無料眼科健診を実施

目は大丈夫と 思っている方のために

最近では自覚症状がない間に進行し、視野が狭くなる緑内障が注目されています。京都医療生協では十一月十六日(木)に無料眼科健診を実施し、組合員など八名の方が受診されました。今回の受診者の年齢は六十二歳〜八十七歳(平均七十一歳)でした。健診の結果、七名の方に軽度ではあっても白内障が見受けられ、精密検査を必要とする方が一名おられました。

労働革命を主導できる政治を

この豊かな長寿社会の建設を世界に提示すること、世界平和の基礎ともなります。労働研修制度を充実して、諸外国の国内建設に寄与すれば、若者に希望の灯をともします。そのためには、科学技術、産業、税制、社

お知らせ

中野眼科大徳寺前診療所は、平成三十年三月三十一日付で閉院することとなりました。中野眼科では、本院(千本丸太町)、四条分院(四条大宮)、朝日会館診



